

次の文章では、あるふたりの教師の例が紹介されています。この文章を読んで、後の設問に答えなさい。

まずひとり―仮に教師Aとしましょう。教師Aは担当教科を熱心に教えます。

教科書の内容を補強するためにお手製の教材を携えて教壇に立ち、後れを取っている生徒は丁寧にフォローし、集中力が続きづらい生徒にはマメに声をかけて黒板に目を向けさせる。とにかく一定の知識を教えきって、その知識の習得度合いを問うテストでクラス全員に点数を取らせるんだという使命感に燃えています。

教師Aは担任も受け持っています。担任の使命はクラスをひとつにまとめあげること。そのために、時には大きな声を出すことも厭いません。全校集会など、学校中の生徒が一堂に会するときこそ本領の発揮どころ。日ごろの訓練の成果とばかりに大号令をかけ、クラスの生徒たちを一斉に動かしたり、静かにさせたりします。

その甲斐あって、よく「A先生のクラスはいいクラス」と言われました。学校にも保護者にも評価されて満足でした。担任としての業務など、授業以外の様々な学校業務に追われて常に疲れています。それだけ大きなやりがいも実感しているのです。

ところが、ここ数年でしょうか、なんだか様子が違います。「もっと子どもの個性や才能を伸ばすような授業をしてください」と求められます。「このデジタル最盛時代に、授業で使うのは教科書とお手製の教材だけ？信じられない」と責められます。

以前は天職だと思っていた教師という仕事が急に難しく感じられるようになり、職場である学校の居心地も悪くなるばかりです。

一方、もうひとりの教師―仮に教師Bとしましょう。教師Bも担当教科を熱心に教えますが、教師Aとはだいぶ勝手が違います。

授業では、まずYouTubeの解説動画を見せて知識面をざっとさらいます。

それがだいたい済んだら、クラスみんなで議論する時間が始まります。

「さっき学んだことを踏まえると、こういう場合はどうだろう？」

「仮にこうだったとしたら、君たちならどうする？」

「よし、今日はこういう図を使って、この問題を整理してみよう」

「君たちの考えが尽くしたところで、ChatGPT(注)に同じ問いを投げかけたら、どんな答えが出てくるかな？」

教師Bの授業というところ、こんな時間が半分以上を占めるのです。

そうなるとテストの内容も教師Aのそれとは違います。知識を問う問題は半分以下で、半分以上は、ある所与の課題について生徒が知識を踏まえて自由に考えたことを述べる論述問題です。テストであるからには点数をつけますが、それは生徒に序列をつけるためではなく、より個性豊かな思考力を伸ばすための課題を明確化するためのものです。

ところで教師Bは担任を受け持っていない。担当教科を教えることに特化した専任教師として雇用されているからです。

そのおかげで教師Bは、もっとおもしろい授業、もっと取り組みがよいのある課題を考えるよう時間を割くことができます。だから生徒たちはいつそう楽しく学び、各々の思考力がのびのびと育まれるという好循環が生じているのです。

(石川一郎『捨てられる教師 AIに駆逐される教師、生き残る教師』)

SBクリエイティブ株式会社 二〇二三年より

なお、出題にあたり一部文字の表記を変更した箇所がある。()

(注) ChatGPT…アメリカ合衆国サンフランシスコに拠点を置く研究機関・企業 OpenAI が開発し、二〇二二年十月に公開した、人工知能による自動会話プログラムであり、生成的人工知能の一種。

設問

この文章を読み、二〇〇字程度で要約しなさい。さらに教師Aと教師Bの教育方法について、あなた自身の教育観やこれからの教育の在り方に対する意見を含めて、あなたの考えを述べなさい。全体で八〇〇字以内(厳守)とします。